



## 第24回総会学術大会開催のご案内

第24回日本核医学技術学会総会学術大会  
大会長 福喜多 博 義

第24回総会学術大会は、平成16年7月24日（土）、25日（日）の2日間にわたり、千葉市文化センターで開催致します。実行委員長には現在千葉核医学技術研究会の代表世話人である酒井良介（社会保険船橋中央病院）氏にお願いし、千葉県下の核医学技術者の英知を結集した大会になるよう企画しております。千葉県は核医学のメッカとも言われ、歴史的には千葉大や放医研そして千葉県がんセンターがわが国での先導役として古くから核医学検査が行なわれていました。ところが不思議なことに本大会が千葉県で開催されるのは初めてであり、今までの歴史を顧みるときその重責を感じています。

さて、本大会を開催するにあたって千葉市の共催を得ることができました。昨今マスコミ等でPET検査が注目され、またサイクロトロンとPET装置が検診センターにも導入されようとしています。そこで市民にも「がん」の早期発見の必要性和PET検査について理解を深めて頂くため、市民公開講座として「PET展」と講演を企画しております。また、南極越冬隊長を勤められた西尾文彦（千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授）先生に「南極は人類の宝物、そして人類の未来を写すかがみ」と題して文化講演をお願いしています。市民にもまた会員にとっても興味ある話となることでしょう。ちなみに先生は伊賀上野出身で高校の先輩でもあり、無理を言って講演をお願いしました。

「融合から創造へ～新しい核医学技術を求めて～」を大会テーマとしました。医療界を取り巻く環境は大変厳しく、特に本年4月から始った特定機能病院を対象とした包括化医療は、核医学検査の衰退にも繋がりがねない問題を含んでいます。そこで、核医学技術者として質の高い医療を患者に提供するため、EBM（科学的根拠に基づいた医療の実施）の概念を導入した検査法の確立を目指していかなければなりません。その中で、本当に医療に役立つ核医学検査は何かを求める機会として、新しい分野である「細胞シート工学を基盤とする再生医療」について岡野光夫（東京女子医科大学先端生命医科学研究所教授）先生に特別講演をお願いしました。また、核医学専門医の立場から国際的にご活躍されご高名な千葉大学出身の蓑島聡（University of Washington, Division of Nuclear Medicine and Radiology, Professor）先生に特別講演をお願いしました。海外招待講演として、恒例となっているSNMT（米国核医学会技師部門）から、現会長であるLyn Mehlberg先生に、米国核医学技師の現状と米国核医学技師が目指すものについて話題提供していただく予定です。これら大会テーマに沿った講演から、会員の新しい発見があることを期待しています。このように講演は盛り沢山な内容となっていますが、基礎講座やシンポジウムでは大会テーマに沿って、EBMに関する内容で卒後教育講演とシンポジウムを展開していただく予定です。当然ながら一日目と二日目の午前には会員からの一般研究発表枠を多く設定していますので、多くの会員から演題を応募されますようお待ちしております。

ご存知のように千葉県には日本メジフィジックスと第一ラジオアイソトープ研究所の工場があります。そこで実行委員会企画として、両メーカーのご協力により大会前日に工場見学を企画しました。毎日届けられる放射性医薬品がどのように製造されているか、会員には必見と思われます。

その他詳細については、またご家族連れの方の会員のためにホームページ上でもご案内していますので、是非ご覧になって下さい（ホームページアドレス：<http://jsnmt24.umin.jp/>）。